

- Index-
- 地域支援の申し込みについて
 - 令和5年度 各種研修会のお知らせ
 - 令和4年度 地域支援報告
 - 自立活動の取り組み紹介
 - ろうの先輩から学ぼう/電話リレーサービスについて知ろう—



創刊29年目「みみネット」

大阪府立中央聴覚支援学校〈聴覚支援センター〉では、地域の学校園の先生方に向けて、聴覚障がい教育に関する情報紙「みみネット」を月1回発行しています。大阪府立学校園にメール配信するとともに、大阪府立学校園にも案内を送信しています。ぜひ、ご活用ください！

「みみネット」は、本校ホームページから閲覧可能です。
<https://www2.osaka-c.ed.jp/osakachuo-c-s/>



大阪府立中央聴覚支援学校
~Chuo School for the Deaf~



地域支援の申し込みについて

本校では、「きこえ」や「ことば」に関する相談・支援を行っています。聴覚障がい教育の豊かな経験と専門的な知識を持った教員が、それぞれの課題に即した相談・支援に応じます。

教員研修

本校教員が学校園に訪問し、教員研修や理解授業支援を行います
(例)「きこえと補聴器」「きこえにくい子どもへの指導の実際」「擬似難聴体験」など

理解授業支援

共同して授業計画を立案し、効果的な指導に結びつくよう相談・支援を行います
(例)「聴覚障がいのある先生との交流」「きこえにくさの体験」など

支援や指導に関する相談

指導の方法、教材作成上の工夫、教室の音環境、情報保障等に関する相談・助言に応じます

補聴相談

聴力の測定やことばのききとり評価を行うとともに、補聴器や人工内耳の効果的な活用などについての相談に応じます

各種研修会(年間3回)

年3回の研修会を、本校にて実施しています

<申し込み方法>

ご相談は随時受け付けています。本校に支援や相談を依頼される場合には、本校「特別支援教育コーディネーター」まで、電話またはFAXにて、ご連絡ください。
なお、大阪市立の学校園からの依頼は、大阪市「SKIP 書庫」に支援申込票などの必要書類が掲載されています。

特別支援コーディネーター
TEL. 06-6761-1419
FAX. 06-6762-1800

大阪市：「指導部」→「インクルーシブ教育推進担当」→「府立支援学校への地域支援申込」

令和5年度 各種研修会のお知らせ（予定）

令和5年度の本校主催の研修会についてお知らせします。今年度も地域の先生方のニーズにお応えできるよう、充実した研修内容を企画しています。

<研修会の日程>

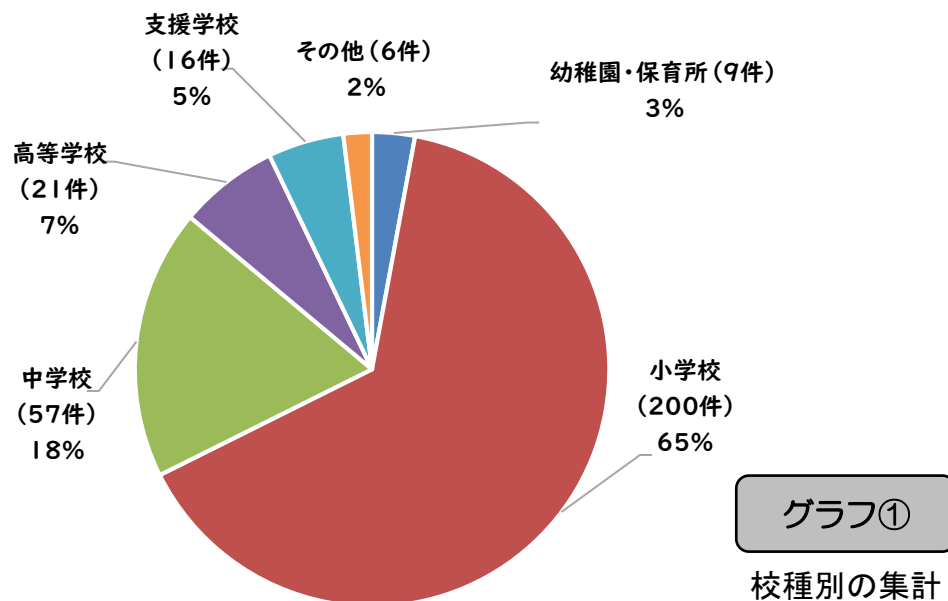
- 8月 初旬 「聴覚障がいのある幼児・児童・生徒の担当教員研修会」
「養護教諭セミナー」
- 12月もしくは1月 「みみネットアカデミー」

8月の研修会については、日程が決まり次第「みみネット」および本校ホームページ等に、掲載します。

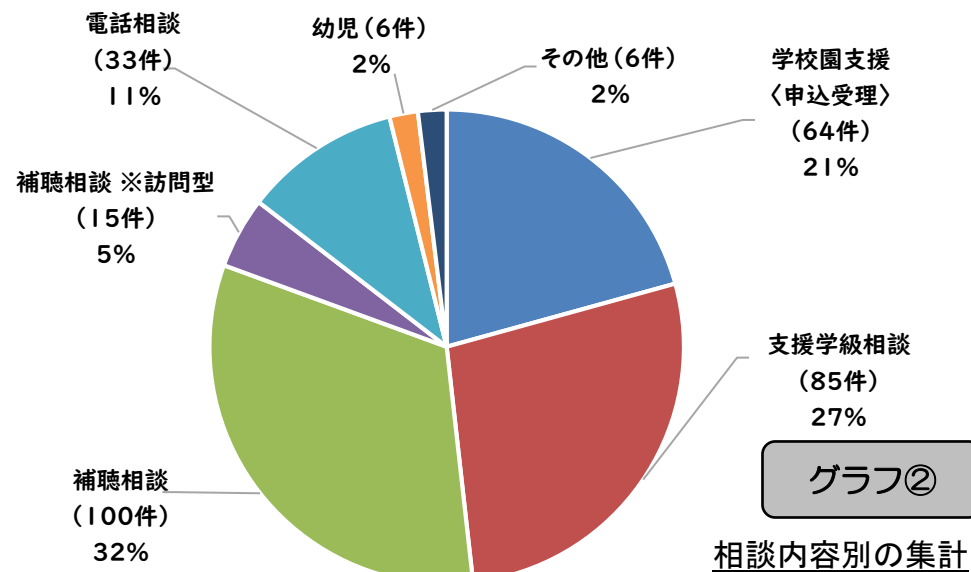
令和4年度 地域支援報告

令和4年度に本校が実施した支援総数は **309** 件でした。

昨年度、本校の聴覚支援センターが実施した支援相談の件数を、校種別（グラフ①）および相談内容別（グラフ②）に掲載しています。



校種別（グラフ①）の件数については、小学校を対象とした支援相談件数が半数以上を占めています。全体的な比率については、令和3年度と大きな変化はありません。



相談内容別（グラフ②）の件数については、「電話相談」が令和3年度よりも減少（61件→33件）しています。新型コロナウイルス感染症の影響が減少傾向にあることが、要因として考えられます。また、全体の支援総数は減少していますが、来校相談や補聴相談（※支援学校を対象とした訪問型の補聴相談を含む）の件数は令和3年度とほぼ同じです。

支援学級相談

聴覚支援センターでは、小・中学校の支援学級に在籍する児童・生徒の支援として、「支援学級相談」（教育相談）を実施しています。支援学級相談の申し込みがあった大阪市・守口市の小・中学校に対して、希望があれば訪問支援を行っています。令和4年度は、「支援学級相談」の対象児童・生徒 **40** 名（小学生 **29** 名、中学生 **11** 名）に対し、のべ **55** 回の訪問支援を行いました。

（訪問支援は、グラフ②の「学校園支援」の中に含まれます）

補聴相談（支援学校への訪問）

支援学校に在籍する子どもたちの支援のために、希望のある学校に訪問して補聴相談を行っています。令和4年度は、大阪市と守口市の対象の支援学校15校のうち、**5校（15名）**に実施しました。今年度も、上記の対象校に案内を配付しています。

— 自立活動の取り組み紹介 —

ろうの先輩から学ぼう／電話リレーサービス

本校中学部では、自立活動の取り組みとして、ろうの先輩をはじめとした外部講師（ゲストティーチャー）による講話を、定期的に行っています。子どもたちは、自分と同じようにきこえない・きこえにくい成人聴覚障がい者が、どのような中学時代を過ごしていたのか、どのようにして進路を決定したのか、また現在どのようにして、社会で力を発揮しているのか・・・毎回、真剣なまなざしで、話をきいています。今回は、活躍している昨年度に実施した内容の一部をご紹介します。

テーマ「ろうの先輩から学ぼう／電話リレーサービスについて知ろう」

学習の目標

- ①電話リレーサービスの特徴や利用方法など、サービス概要についての知識を得る
- ②ロールモデルと出会うことによって、聴覚障がい者としてのアイデンティティの形成を図る

当日は、日本財団電話リレーサービスの方々にご協力いただき、講話と体験を行いました。まずは、日本財団の川俣郁美さんより、アメリカ留学をしようと思ったきっかけや留学生活で感じたことなど、クイズを交えてZoomでお話していただきました。

<ゲストティーチャー 1>

川俣郁美さん

日本財団 特定事業部 True Colors チーム
(兼) グローバル・イシューチーム

意外な文化の違いのお話もあり、子どもたちは驚いていました。「自分にしかできない気づき・経験・出会いがある！」と、最後には力強いコメントをいただきました。



次に、日本財団電話リレーサービスの原千夏さんより、お話をいただきました。電話リレーサービスの利用方法や利用にあたっての注意点などを学び、実際に子どもたちに体験させていただきました。

<ゲストティーチャー 2>

原千夏さん

日本財団電話リレーサービス



体験では、初めての経験に戸惑う様子がみられましたが、徐々に慣れ、手話でのやりとりがスムーズになりました。いつ、どんな場面で電話が必要になるかわかりません。「登録さえしておけば、すぐに使うことができ便利」と、原さんからお話がありました。

電話リレーサービスとは？

電話リレーサービスとは、聴覚や発話に困難のある人（以下、きこえない人）と、きこえる人（聴覚障がい者等以外の人）との会話を通訳オペレータが「手話」または「文字」と「音声」を通訳することにより、電話で即時双方向につながるができるサービスです。



24時間・365日、双方向での利用、緊急通報機関への連絡も可能となります。

— 活用の例 —

- 【緊急通報機関への連絡】緊急時、110、118、119へかけることが可能
- 【病院の予約・連絡】急に体調が崩れた時も、スムーズに病院へ連絡可能
- 【仕事の相手先との連絡】仕事の相手先に電話で連絡して相互にやりとりすることが可能
- 【店舗の予約・連絡】ケーキの注文など、詳細な依頼がリアルタイムで可能

ほかにも、銀行やクレジットカード会社への問い合わせ、宅急便の再配達など、さまざまな場面で電話リレーサービスを活用した速やかなやりとりが可能となります。

(参考) 日本財団電話リレーサービスホームページ <https://nftrs.or.jp/about/>

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800